

福島県産



いわきねぎ

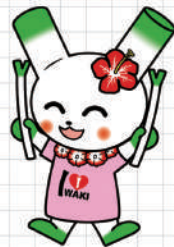
いわき市内では100年以上前の明治初めから栽培が始まり、現在では福島県内でも有数の産地となっています。

ねぎは、収穫時期によって、

- ▶「春ねぎ」(4月から6月)
- ▶「夏秋ねぎ」(8月から10月)
- ▶「秋冬ねぎ」(11月から3月)

と呼ばれ、ほぼ1年中栽培・出荷されており、いわき市内では特に「秋冬ねぎ」が盛んに栽培されていますが、近年では、春ねぎ、夏秋ねぎへの作型分化による周年生産が推進されています。

【主な栽培地域】
四倉町大浦、平草野・
夏井・神谷、錦、
植田、山田など



【いわきねぎの特徴】

つややかで、白い部分が長い。香りが高く、柔らかく、ほんのりとした甘み特徴です。
「いわきねぎ」と呼ばれるものは、白い部分の長さが一定以上である規格(白い部分が、冬場は30センチ以上、夏場は25センチ以上)をクリアした良質なものであり、首都圏へも出荷されています。

【ポイント】

ねぎは、土の入れ方が難しいので、とても気を遣います。土をどれだけ高く盛れるかが、白い部分の長いねぎを作る秘訣です。ねぎは、本来伸びるより太ろうとする性質を持つため、太りを抑えて長くて白いねぎをつくり出すために、ねぎの生長に合わせて土を寄せる「土寄せ」は、重要な作業です。気温の高い時期は、あまり土を盛りすぎると土の中にある白い部分の生長が抑えられてしまうので、ねぎの生長を見ながら、少しずつ土を足していきます。

ここをcheck!

土でこんもりと覆うことで
白いねぎが育ちます。



鮮度の高いねぎは、
根の切り口が白い!



葉っぱが真っすぐに伸びていて、
緑と白のコントラストがはっきり
したもの。何度も土寄せをして丹念に
育てられたねぎほど、緑と白の
コントラストがはっきりします。

ねぎができるまで (秋冬ねぎ)

はしゅ いくびょう
播種及び育苗(3月下旬～6月上旬)

育苗箱で種から苗を育てます。

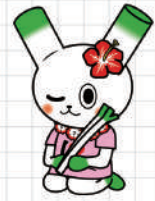


定植(5月下旬～7月中旬)

苗を畑に植え付けます。
※定植：苗を畑に植えること



白い部分が
長くないものは
「いわきねぎ」とは
呼ばないのネ!



3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月



土寄せ・追肥(6月下旬～)

生長に合わせて4～5回ほど
土と肥料を混ぜてねぎに寄せ、
白い部分を伸ばします。



収穫(11月下旬～3月下旬)

収穫機や手作業で収穫します。



調整・出荷

収穫したねぎの葉や皮を機械で
整え、規格別に箱詰めします。

「白いねぎ」と「青いねぎ」



ねぎには、煮物などでよく使われる関東方面の「根深ねぎ」(白ねぎ)と、やわらかい葉の部分を食べる関西方面の「葉ねぎ」(青ねぎ)があります。いわき市では根深ねぎ作りが盛んですが、小川町の一部では、養液栽培で葉ねぎが作られています。

「福島さくら農業協同組合いわきねぎ部会GAP研究会」は、
2019年2月に、第三者認証「FGAP(ふくしま県GAP)」を取得しました!

※GAP(ギャップ)とは、「食品の安全」「環境の保全」「労働の安全」を守るため、
農業の進め方にルールを作り、安全安心な農業に取り組むことをいいます。

- ▶ASIAGAP(アジアギャップ) 日本発の国際的な認証。
- ▶JGAP(ジェイギャップ) 日本発のデファクトスタンダード(事実上最も標準的)な認証。
- ▶FGAP(エフギャップ) 農林水産省のガイドラインに基づく福島県が定める認証。
※福島県では、放射性物質対策の基準も設けています。

●GAPに関する詳しい情報は、「いわき市公式ホームページ内」

GAP

